

令和4年度病害虫発生予察特殊報 第4号

令和5年2月3日
岐 阜 県

- 1 作物名 トマト
- 2 病害虫名 クロテンコナカイガラムシ *Phenacoccus solenopsis* Tinsley
- 3 発生地域 岐阜地域

4 発生状況

令和4年10月に岐阜地域のトマトほ場（1ほ場）において、雑草に寄生していたコナカイガラムシ類が、一部のトマト株に移動して増殖していることが確認された（写真1、2）。本虫を採集し、農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼した結果、クロテンコナカイガラムシと同定された。

クロテンコナカイガラムシによる農作物への被害は、これまでに、愛知県や滋賀県などの17府県において確認されている。

被害作物は、ナス、トマトなどのナス科作物をはじめとした果菜類で報告事例が多い他、ホウレンソウ、キクなどの葉菜類や花菜類でも報告がある。本種による農作物の被害は本県では初確認である。

5 形態及び生態

クロテンコナカイガラムシは、中南米原産の昆虫で、南アジアや東南アジアへ分布域が拡大し、現在では世界各地に分布している。成虫の体長は約3~5mmで、背面に白色のロウ物質を分泌し、体色は白く見える（写真3）。背面の一部にロウ物質が薄い部分があるため、1対の縦帯状の黒斑があるように見える。1齢幼虫期には歩いて移動するため、分散して寄生部位が拡大する。雌は3齢幼虫を経て成虫となるが、雄は2齢幼虫を経て蛹化し、羽化後は有翅の成虫となる。

広範囲の作物に寄生し、64科200種以上の植物に寄生することが知られている。植物の葉、茎、花芽及び果実に寄生し、吸汁により寄主植物を衰弱させるため、発生が多くなると生育不良になる。吸汁による排泄物として甘露を分泌するため、葉や果実にすす病（甘露を栄養源とするカビ類）が発生する。

6 防除対策

- (1) 令和5年1月末現在、トマトの本種に対する登録農薬はない。そのため、以下の耕種的防除を実施する。

- (2) 周辺への発生の拡大を防ぐために、寄生部位は速やかに除去するとともに、残渣を適切に処分する。
- (3) 雑草に寄生して生息可能なため、ほ場周辺の除草を徹底する。



写真1 トマト葉柄に寄生している様子



写真2 寄生されたトマト株



写真3 クロテンコナカイガラムシ成虫
(矢印：黒斑様の特徴)